平成 24 年度　前期

① 基礎データ

【授業の知的価値について】

本専攻が提供する授業の知的価値について高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生はそれぞれの項目で 83％以上であり、「知的好奇心をかき立てるものであった（85%）」「期待した知識が授業で得られた（83%）」「ビジネスの実践に役立つと思われる知識が得られた（84%）」となった。

【担当教員について】

本専攻の担当教員について高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は、それぞれの項目で 80％台から 90％台であり、「熱意（94%）」「学習の目標の明示（89%）」「説明の明快性（85%）」「質問への的確な回答（88%）」「教員知識（96%）」となった。

【講義技術について】

本専攻の担当教員の講義技術について高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は、それぞれの項目で 80％台から 90%台であり、「授業準備の周到さ（92%）」「教科書、参考書、配布資料などの有用性（85%）」「板書、OHP、スライド、ビデオなどの使い方（82%）」について高い満足度を示していることがわかる。また、「学生が授業中にディスカッションに参加することを奨励されたかどうか」については 81％が Yes（5 及び 4 評価の合計）と答えており、ビジネス・スクールらしい双方向型授業が行われていることを示している。さらに、88％の学生が「授業は全体としてよくまとまっていた」として、総合的に高い満足度を示している。

【全体的評価・満足度】

本専攻の教育に関する総合的満足度について高い満足度を示した学生はそれぞれの科目で 80％台であり、「全体としてこの授業は極めて有益であった（87%）」「私はこの科目を他の学生にも勧めたい（80%）」など、総合的満足度が高いレベルにあることがわかる。また、学生の学習意欲については、「この授業に意欲的に取組んだ」とするもの（5 及び 4 評価の合計）が 84％に達している。

【科目の特徴】

・ 科目の難しさについては「ちょうど良い（3 ランク）」と「難しい（4 ランク）」程度が適当と考えられるが、全体として 3～4 ランクを挙げた学生の合計は 87％であり、全体としで適切な水準であると考えられる。但し、科目の一部に「難しい」ないし「非常に困難」と答えた学生が 80％を超える授業が存在するが、学生を鍛えるためのものであり、特に問題とはならないであろう。

・ 勉学の負荷については「ちょうどよい（3 ランク）」と「やや重い（4 ランク）」程度が適当と考えられるが、全体として 3〜4 ランクを挙げた学生の合計は 87%であり、適切な水準と考えられる。
・ 授業のペースについては、「ちょうど良い（3 ランク）」が妥当なレベルであり、70%であるが、「やや早い」は 21%で、適度な緊張感が保たれているものと考えられる。
・ 教員の親近性については、「とても親近感がもてる（5 ランク）及び「親近感がもてる（4 ランク）」合計で 76%であり、大半の教員が適切な教育上の距離を維持しているものと考えられる。

【授業内容の重複】

本専攻の授業は数多く開講されているため、科目内容の重複を調査しているが、問題は見られない。隣接科目における内容の重複はあるものの、異なる角度や異なるレベルでの教育であるため、学生の反応も「理解が深まる」「復習が出来た」「相互補完できた」と肯定的である。

【自由記述欄】

自由記述について、一般論としてコメントすることは大変難しい。特に表面的な評価はかえって状況を mislead する可能性すらあると考えられる。アンケートは無記名であるため「当人の学識レベル」「心理状態」「期待の程度・内容」などが掴めないことに加え、各学生が極めて短い言葉で記述しているため、そこでのニュアンスなどを掴み取ることが困難であるからである。例えば「要改善」の項目において、「ディスカッションの時間が少ない」という記述に関する背景については、(a) ディスカッションを行うべき授業なのにディスカッションに割く時間が少ない、(b) ディスカッションの時間を最大限とっているが、面白い授業なのでもっとディスカッションをしたい、(c) ディスカッションが盛り上がらないうちに終ってしまうなど様々なケースが考えられる。これらのニュアンスは、究極的に各科目の教員が自由記述を読んで判断すべきと考えられ、第三者が一般的評論を加えることには限界があると思われる。自由記述そのものの価値は認められるものの、これは当該科目の特徴、教員のくせ、授業内容などを熱知した者でなければ学生の真意を充分に汲み取ることは困難である。誤解を生じさせることがない記述もあり、以下ではこの点のみコメントを行う。

本専攻の教育として学生が良いと感じている点で最も多い意見は「実践的である」「教員の実務経験に基づくこと」「多様なものの見方ができるようになった」「具体例等が豊富で興味深い」などである。これらは、他にも多くの学生があげる「ケースが有益」「専門性が高い」「様々なゲストの話が非常に良い」などの点とともに、本専攻の実践的教育が高く評価されたものと考えられる。また、「充実した価値ある講義」「積極的に発言する機会を与えられた」などを挙げた学生も多い。一方、学生が不満に感じる点としては、「ディスカッションをもう少し増やして欲しいないし長くして欲しい」「発言しても否定

的な意見で返されるため発言しずらい」「講義の時間管理」「レジュメの配布が少ない」「先生が一方的に話す時間が長すぎる」などテクニカルな不満が若干提示されており、該当する教員は改善努力が必要と思われる。

② 集計結果の概観

【評価の総合的結果】

データ上も自由記述コメント上も、本専攻の前期授業は総合的に高い満足度を得ている。学生は、それぞれの授業について肯定的・否定的両面から様々なコメントを寄せているので、教員は各コメントを読み、授業改善に活かしていくことが重要である。

【組織的に緊急に改善が必要な点】

本アンケート結果をみて、本専攻として、教育上組織的に緊急に改善が必要な点は特に見られない。

平成 24 年度　後期

① 基礎データ

【授業の知的価値について】

本専攻が提供する授業の知的価値について高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生はそれぞれの項目で 80%台であり、「知的好奇心をかき立てるものであった（89%）」「期待した知識が授業で得られた（84%）」「ビジネスの実践に役立つと思われる知識が得られた（83%）」となった。

【担当教員について】

本専攻の担当教員について高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は、それぞれの項目で 80%台から 90%台に上っており、「熱意（91%）」「学習の目標の明示（84%）」「説明の明快性（87%）」「質問への的確な回答（87%）」「教員知識（96%）」となった。

【講義技術について】

本専攻の担当教員の講義技術について高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は、それぞれの項目で 70%台から 80%台であり、「授業準備の周到さ（86%）」「教科書、参考書、配布資料などの有用性（82%）」「板書、OHP、スライド、ビデオなどの使い方（78%）」について高い満足度を示していることがわかる。また、「学生が授業中にディスカッションに参加することを奨励されたかどうか」については 89%が Yes（5 及び 4 評価の合計）と答えており、ビジネス・スクールらしい双方向型授業が行われていることを示している。さらに、84%の学生が「授業は全体としてよくまとまっていた」として、総合的に高い満足度を示している。

【全体的評価・満足度】

本専攻の教育に関する総合的満足度について高い満足度を示した学生はそれぞれの科目で 80%台であり、「全体としてこの授業は極めて有益であった（87%）」「私はこの科目を他の学生にも勧めたい（85%）」など、総合的満足度が高いレベルにあることがわかる。また、学生の学習意欲については、「この授業に意欲的に取組んだ」とするもの（5 及び 4 評価の合計）が 86%に達しており、真剣に授業に取組んでいる姿が窺える。

【科目の特徴】

科目の難しさについては「ちょうど良い（3 ランク）」と「難しい（4 ランク）」程度が適当と考えられるが、全体として 3～4 ランクを挙げた学生の合計は 89%であり、全体としで適切な水準であると考えられる。

勉学の負荷については「ちょうどよい（3 ランク）」と「やや重い（4 ランク）」程度が適当と考えられるが、全体として 3～4 ランクを挙げた学生の合計は 85%であり、適切

な水準と考えられる。

授業のペースについては、「ちょうど良い（3 ランク）」が妥当なレベルであり、79%であるが、「やや早い」は 13%で、適度な緊張感が保たれているものと考えられる。

教員の親近性については、「とても親近感がもてる（5 ランク）及び「親近感がもてる（4 ランク）」合計で 81%であり、大半の教員が適切な教育上の距離を維持しているものと考えられる。

【授業内容の重複】

本専攻の授業は数多く開講されているため、科目内容の重複を調査しているが、問題は見られない。隣接科目における内容の重複はあるものの、異なる角度や異なるレベルでの教育であるため、学生の反応も「理解が深まる」「復習が出来た」「相互補完できた」と肯定的である。

【自由記述欄】

自由記述について、一般論としてコメントすることは大変難しい。特に表面的な評価はかえって状況を mislead する可能性すらあると考えられる。アンケートは無記名であるため「当人の学識レベル」「心理状態」「期待の程度・内容」などが掴めないことに加え、各学生が極めて短い言葉で記述しているため、そこでのニュアンスなどを掴み取ることが困難であるからである。例えば「要改善」の項目において、「ディスカッションの時間が少ない」という記述に関する背景については、(a) ディスカッションを行うべき授業なのにディスカッションに割く時間が少ない、(b) ディスカッションの時間を最大限とっているが、面白い授業なのでもっとディスカッションをしたい、(c) ディスカッションが盛り上がらないうちに終ってしまうなど様々なケースが考えられる。これらのニュアンスは、究極的に各科目の教員が自由記述を読んで判断すべきと考えられ、第三者が一般的評論を加えることには限界があると思われる。自由記述そのものの価値は認められるものの、これは当該科目の特徴、教員のくせ、授業内容などを熱知した者でなければ学生の真意を充分に汲み取ることは困難である。誤解を生じさせることがない記述もあり、以下ではこの点のみコメントを行う。

本専攻の教育として学生が良いと感じている点で最も多い意見は「実践的である」「教員の実務経験に基づくこと」「説明の仕方が具体的」「具体例が豊富で興味深い」などである。これらは、他にも多くの学生があげる「外部講師の生の声を聞けた」「ケースが有益」「専門性が高い」「グループワークが有益」などの点とともに、本専攻の実践的教育が高く評価されたものと考えられる。また、「留学生を交えた授業で大変刺激を受けた」「充実した価値ある講義」であることを挙げた学生も多い。一方、学生が不満に感じる点としては、「板書が見にくい」「その都度資料を配布して欲しい」「図などが小さくて見ずらいスライド」「資料を事前に配布して欲しい」「時間がオーバー気味」「プレゼンテーションやディスカッション時間をもう少し長く・短く」「補講が多い」などテクニカルな

不満が若干提示されており、該当する教員は改善努力が必要と思われる。

② 集計結果の概観

【評価の総合的結果】

データ上も自由記述コメント上も、本専攻の後期授業は総合的に極めて高い満足度を得ている。学生は、それぞれの授業について肯定的・否定的両面から様々なコメントを寄せているので、教員は各コメントを読み、授業改善に活かしていくことが重要である。

【組織的に緊急に改善が必要な点】

本アンケート結果をみて、本専攻として、教育上組織的に緊急に改善が必要な点は特に見られない。

平成 24 年度　修了時アンケート結果

① 基礎データ

【二年間の総合評価について】

＜教育内容＞

本専攻が提供した教育内容について高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は 89%であり、高い満足度を示していることがわかる。

＜カリキュラム体系＞

本専攻が提供しているカリキュラム体系について高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は 80%であり、高い満足度を示していることがわかる。

＜教育方法＞

本専攻の教育方法について、高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は、89%であり、高い満足度を示していることがわかる。

＜授業環境（設備等ハード面）＞

本専攻の設備等ハード面について、高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は、77%であり、高い満足していることを示している。なお、箱崎教室でプロジェクターやマイクのトラブルが時々あることや自習室の PC を最新のものにして欲しいなどの意見が出ている。

＜授業環境（運営等ソフト面）＞

本専攻の運営面等ソフト面について、高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は、69%であり、ほぼ満足していることを示していることが窺える。なお、資料の事前配布をして欲しいこと、大学の運営の柔軟化に対する要望などがなされている。

＜教員の指導＞

本専攻の教員の指導について、高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は、86%であり、高い満足度を示している。

＜総合評価＞

本専攻に在学した 2 年間の総合評価について高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は、83%であり、高い満足度が示されている。そこでは、「興味深い授業が多かった」「多くの示唆があり、知識の向上ができた」などの感想があった。

【プロジェクト演習の評価について】

＊　昨年度よりプロジェクト演習が選択科目となったために、アンケートにおいて未記入が生じており、未記入は履修していないものとして取扱った。

＜内容・方法・プロセス＞

当項目について、高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は 75%であり、ほぼ満足している状況が表明された。

＜結果の出来映え（学生の判断）＞

プロジェクト演習活動及びその結果について、学生自身の高い達成度（5 及び 4 評価の合計）を認識した学生は 53%であり、学生自身としては、必ずしも満足していない結果が窺える。

＜努力したか（学生の判断）＞

学生自身の努力度合いについて、高いレベル（5 及び 4 評価の合計）を認識した学生は 81%であり、一生懸命努力している姿勢が窺われる。

＜教員の指導内容、的確性、円滑性＞

当項目について、高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は 79%であり、高い満足度が表明された。なお、一定のルールで統一された指導（特に論文の書き方）が必要であるという意見があった。

＜教員による対応の綿密性、丁寧さ＞

当項目について、高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は 78%であり、高い満足度が表明された。

＜論文審査発表会のありかた＞

当項目について、高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は 67%であった。ほぼ満足していることが示された。なお、審査会で論文のフォーマットを指摘されるのは、論文指導の統一性がないためではないのかという意見が出された。

＜総合評価＞

当項目について、高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は 69%であり、ほぼ満足していることが示された。なお、「1 年次からゼミを行うこと」「1 年後半からテーマの選定を行わせること」「1 年から論文の書き方の講義があるとよい」などの意見が出されている。

② 集計結果の概観

【二年間の総合評価について】

多くの学生が二年間の当専攻での「教育内容」には高い満足度を示しているという結果が出ており、それ自体は関係者の努力の賜物であると考えられる。しかし、修了時アンケートには、個々の授業名が示されていないこともあり、個別の授業や個々の教育カテゴリーにおいては「前期・後期の FD アンケート」なども加味しながら改善努力を怠らないように心がける必要があると考えられる。

【プロジェクト演習】

プロジェクト演習については、ほぼ満足していることが示されている。しかし、プロジェクト演習を昨年から選択化したばかりなので、引き続き学生の要望を聞き、プロジェクト演習制度の改善努力を怠らない姿勢が必要であると思われる。